



お盆 ぼん

Q お盆って何ですか？

A 「お盆」という言葉は、『仏説盂蘭盆經』というお経によります。
しんしゅう な ひと ごえん あつ ぼんけい おし き
真宗では亡くなった人をご縁として集まり、仏さまの教えを聞いていく行事です。

Q キュウリとナスでつくり物をしたり、
むか び おく び
迎え火と送り火をしますか？

A 色々な風習がありますが、真宗では行いません。お内仏をきれ
いろいろ ふうしゅう おこな ないぶつ
いに掃除し、おかざり(打敷など)をします。ととのえたお内仏
そうじ うちまき
に家族でお参りしましょう。

Q 盆踊りは仏教に関係があるの？

A 盆踊りは平安時代にはじまった念仏踊りがルーツとも言われ
へいあん じだい ねんぶつおど い
ています。今では夏に欠かせないイベントのひとつです。

Q お墓参りって何するの？

A お墓参りは、亡くなった人を想い
おも
「いのち」と向き合い、南無阿弥陀仏
む あ なむあみだぶつ
とお念仏し、仏さまの教えを聞きま
ねんぶつ
す。お願いごとをするために手を合
ねが て あ
わせているのではないのです。





お墓をつくったことがありますか？

犬や猫や鳥や虫や魚や：それ以外にも生き物のお墓をつくったことがありますか？もし、つくったことがあるとしたら、不思議ですね。毎日食べている牛や豚や鳥や魚のお墓はつくらないのに（ひよっとしたらつくったことがあるかもしれないけれど）、どうして「その」いのちが終わった時にはお墓をつくったのでしょうか。

それはもしかしたら、その生き物にいのちを感じたときに、お墓をつくるのかもしれないね。だから、たとえ「その」生き物となんの思い出がなかったとしても、お墓をつくることがあるのかもしれない。

そして、もしその時に手を合わせたり、おじぎをしたりしたら、不思議ですね。どうしてそうしたのでしよう。

いつからかはわかりませんが、昔々から、毎日毎日、今この時どこかで誰かの何かのいのちが生まれ生き死んでいきます。その営みの中で人間はいつからか、苦しんだり悲しんだりするようなになりました。ただ生きてただ死んでいくことができなくなって、苦しんだり悲しんだりさみしくなったりするようになりました。でもそれはいのちの重さ、かけがえのなさを知ったからです。それを大事にしたくて、でもどうしていいかわからないから、苦しんだり悲しんだりさみしくなったりするのもできません。

苦しむのも悲しむのもさみしくなるのも、「大事にしたい」から。生きることを終えていったいのちを前にして、手を合わせたりおじぎをするのは、その「大事にしたい」という心を思い出しうけとった姿なのかもしれません。



—〈慶讃テーマ〉—